

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 6 月調査結果 - -

(平成 1 6 年 6 月 3 0 日)

調査期間：平成 1 6 年 6 月 1 7 日 ~ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 5 7 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 1 製造業 6 2 1 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 7 サービス業 6 0 6

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年6月調査結果のポイント】

業況DIは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、足踏みが続く

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.1）よりマイナス幅が4.0ポイント拡大して31.1となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、卸売を除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が拡大した。依然DI値は低水準のうえ、中小企業の足元の景況感は、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、素材価格の高騰による仕入コストの上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「営業社員の資質強化により、受注につながってきている」（電気工事）といった声はあるものの、「新規受注高は前年同月比で大幅減少し、人員整理が進んでいる」（建築工事）、「市町村合併を控え公共投資予算の減少により受注が減少」（一般工事）、「原材料の仕入単価上昇と公共投資の減少が続いており、先の見通しが立てられない」（一般工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「売上、仕入、採算とも順調に推移し、業況は好転しており、今後も現状を維持できれば業況の回復につながり将来的にも期待感が持てる」（金属加工機械）との声の一方、「デジタル家電、半導体とも上期は需要が好調に推移する見込みだが、下期は不透明な点が多々あり、市場動向が読み切れない」（電子部品）といった声や、「仕入単価の上昇を価格に反映できず、採算が苦しい」（金属製品）と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「空梅雨で天候が良い分、客が多く売上も良くなっている」（食料、飲料）との声の一方、「一時の状況から脱してやや好転の傾向にあるが、需要見通しが不透明で一般的に活気に乏しく、企業間でばらつきがある」（衣服、日用品）、「夏物商戦が不調」（衣服、日用品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「民間企業のボーナスが昨年を上回っているので、ボーナス商戦に期待できる」（百貨店）、「小型普通車が順調な売れ行きで、一部高級車にも動きが見られる」（自動車小売）といった声の一方、「季節商品の水着と浴衣は好調だが、中元ギフトは出足がやや鈍く、ボーナス商戦も前半の盛り上がりには欠ける展開」（百貨店）、「つくりやブランドにこだわった商品は売れているが、商況は全体的に前年同月をやや下回る程度で推移」（百貨店）といった声が寄せられている。

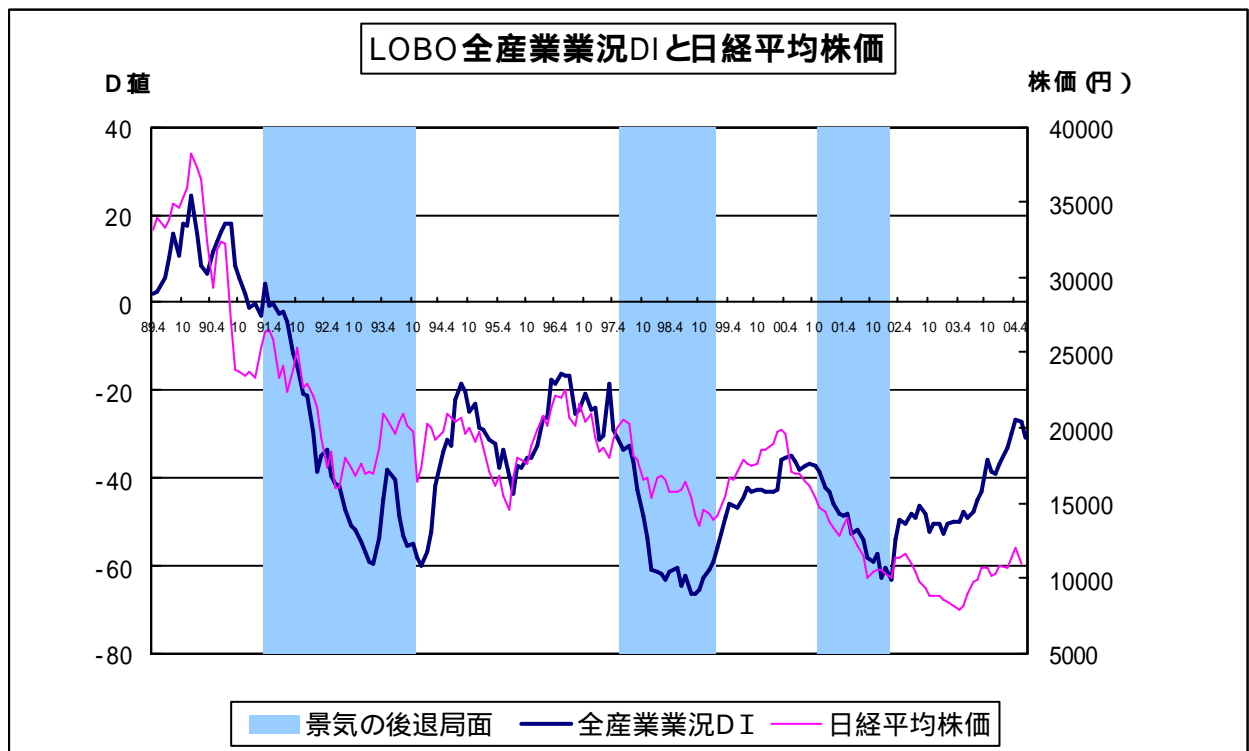
【サービス業】では、「個人の宿泊予約が順調」（旅館）、「システム開発案件が増加傾向」（情報処理）との声はあるものの、「ラーメン店や低価格の居酒屋は好況だが、焼肉屋や高級居酒屋といった業種は不況」（飲食店）、「引き続き荷動きが低調のまま推移し、依然として好転していない」（運輸）といった声や、「原油価格高による関連商品等の仕入単価が上昇している」（自動車整備）と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は 4 . 1 ポイント拡大して 2 8 . 0 となり、7 カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は 2 . 8 ポイント拡大して 2 9 . 7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月 (7 月 ~ 9 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース) が 2 3 . 8 と、昨年同時期の先行き見通し (4 0 . 2) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが依然として寄せられており、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.1）よりマイナス幅が4.0ポイント拡大して31.1となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

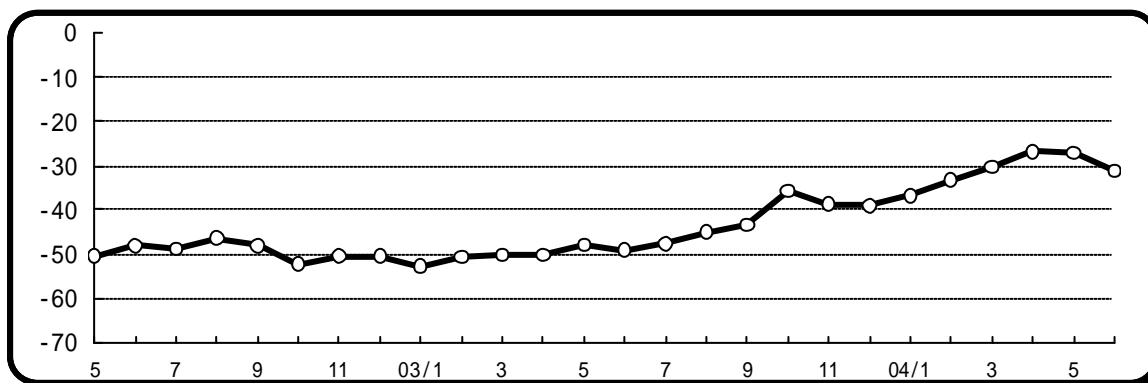
向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が23.8と、昨年同時期の先行き見通し（40.2）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	36.8	33.3	30.2	26.8	27.1	31.1	23.8 (40.2)
建設	55.3	55.5	54.8	50.4	49.1	55.0	40.3 (54.9)
製造	21.5	18.1	14.9	14.6	9.1	17.8	19.9 (39.1)
卸売	36.1	30.4	31.3	26.8	29.6	26.4	14.7 (31.3)
小売	41.6	36.0	31.7	27.7	35.3	35.9	25.5 (37.9)
サービス	35.6	32.9	27.9	23.4	21.2	25.0	18.4 (38.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年6月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

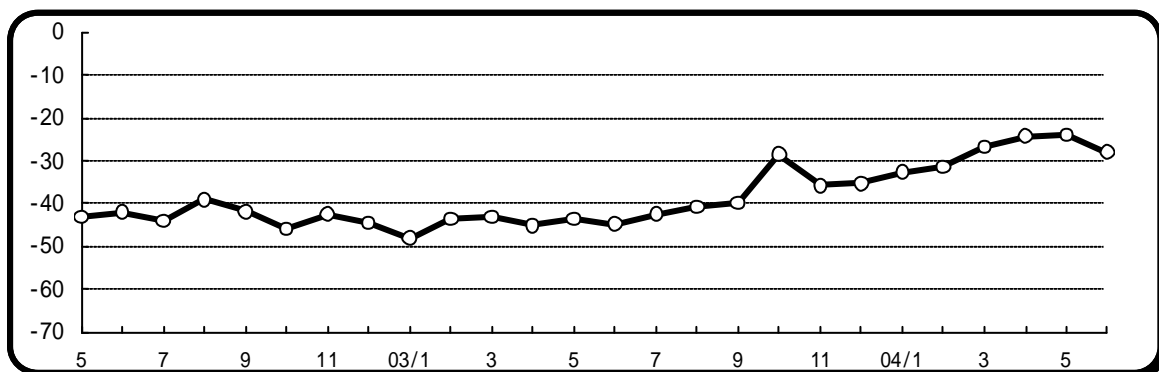
売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は4.1ポイント拡大して 28.0となり、7カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 19.1と、昨年同時期の先行き見通し(34.6)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	32.7	31.5	26.7	24.3	23.9	28.0	19.1 (34.6)
建設	51.8	46.4	49.3	46.7	41.5	42.1	37.2 (44.9)
製造	14.1	11.1	12.8	3.3	0.9	7.8	12.1 (34.8)
卸売	34.3	36.3	24.1	26.8	27.7	30.1	10.4 (27.1)
小売	37.9	35.9	30.0	29.5	36.7	38.3	20.3 (35.0)
サービス	32.8	36.2	23.3	24.8	22.2	26.9	16.5 (30.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

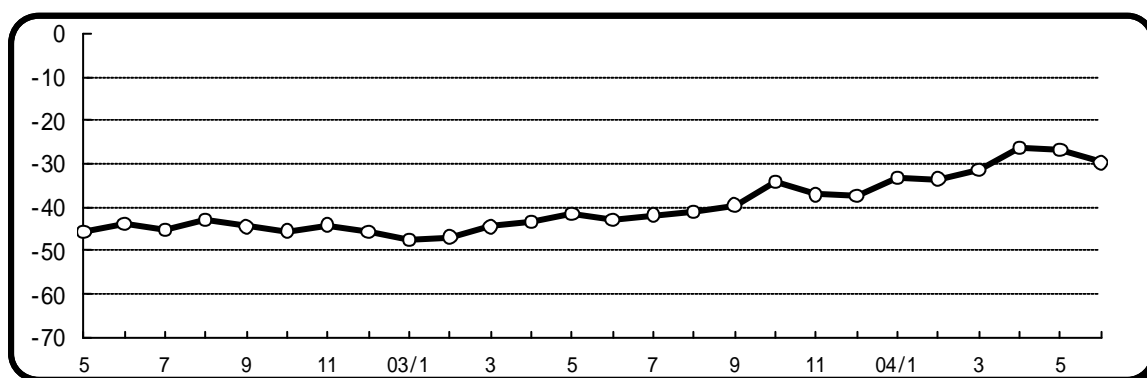
採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 2.8 ポイント拡大して 29.7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月(7 月～ 9 月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算 D I (今月比ベース)が 22.9 と、昨年同時期の先行き見通し(34.2)に比べて改善している。

採算 D I (前年同月比)の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	33.3	33.6	31.4	26.3	26.9	29.7	22.9 (34.2)
建設	49.3	52.9	52.7	49.4	49.1	52.9	44.2 (51.3)
製造	23.2	24.3	24.9	17.6	15.0	21.9	19.9 (36.5)
卸売	32.5	28.6	28.3	20.4	28.9	23.9	11.0 (28.3)
小売	32.1	30.4	27.2	22.9	27.5	28.1	19.9 (26.0)
サービス	35.1	36.7	30.4	26.8	23.6	26.7	19.9 (32.8)

《採算 D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	25.9	26.7	26.5	21.1	21.6	22.8	19.7 (30.3)
建設	41.0	43.0	46.6	35.4	37.9	37.5	36.6 (50.0)
製造	20.1	22.5	21.9	21.0	14.8	18.6	16.5 (32.3)
卸売	22.0	23.9	22.6	19.2	23.3	23.1	13.6 (24.1)
小売	26.0	21.4	21.2	14.2	17.2	18.2	15.4 (22.3)
サービス	22.8	26.3	24.3	19.3	22.0	21.2	19.1 (26.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、卸売、サービスの3業種で悪化超感が弱まったが、製造、小売で強まったため、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	7.6	9.7	10.8	13.3	14.7	15.9	14.1 (4.6)
建設	6.7	6.2	12.2	20.8	22.4	27.2	25.4 (4.2)
製造	20.0	23.9	26.2	30.3	30.0	31.9	22.2 (10.7)
卸売	3.6	6.6	10.3	9.6	9.4	9.3	13.6 (7.3)
小売	2.8	0.4	1.0	0.8	1.4	1.6	2.4 (1.4)
サービス	9.1	10.5	7.5	9.1	11.0	11.4	12.1 (3.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも7カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	10.8	10.0	8.0	7.6	8.6	7.5	8.4 (14.0)
建設	26.6	27.5	26.8	30.8	29.9	27.4	23.1 (29.8)
製造	11.5	9.1	6.0	9.2	5.3	6.0	7.8 (16.3)
卸売	15.1	9.6	11.4	10.8	11.9	10.4	9.0 (16.9)
小売	5.5	4.1	2.7	0.2	3.0	1.2	3.9 (5.8)
サービス	4.0	6.6	2.3	1.0	3.5	2.2	3.6 (9.7)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】製造を除く4業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年6月の景気キーワード】

回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と先行きに期待する声が寄せられており、建設、製造からは「民間企業の発注に動きが見られる」(長岡・電気工事)「設備投資も活発化しており、業況は良好」(下館・金物類製造)「薄型テレビの需要拡大のため、液晶パネル製造機器の受注が増加している」(荒尾・機械製造)「受注が増加し、単価も原材料高に見合う引き上げが認められ、現有設備で残業を増やしても間に合わないものは外注に出している」(銚子・機械部品製造)「健康食品が好調」(富山・医薬品製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「昨年と比べてかなりの好況で、売上の増加傾向は今後もしばらく続くと思われる」(玉名・農畜産水産物卸売)「アテネオリンピックを意識したAV需要が拡大し、季節・白物家電商品の買い替え需要が増加」(京都・百貨店)「ここ2～3カ月は売上が伸びている」(市原・食堂、レストラン)との声が寄せられている。

景況感格差

景気の現状と先行きについて、明るい見通しを持っていないとの声も依然多く、景況感の格差が広がっている。「公共事業の発注は行われてはいるが、絶対量が減少傾向にあり、厳しい状況が続いている」(岩見沢・建築工事)「輸送機器関連を中心に受注量は増加傾向にあり、設備能力、人員も限界だが、収益性を含む先の見通しが不透明なため、設備投資、雇用の推進には至っていない」(高崎・自動車、同附属品)といった声や、「売上高は前年同月並に届かず、2%減少で業況は悪い」(農畜産水産物卸売)「デジタル家電等、話題の商品は売上増加しているが、一般食品、衣料品等は改善せず、全体的に下降傾向」(日立・百貨店)「ゴールデンウィーク明けから客数、売上とも前年割れしている」(下関・商店街)「前年同月比での客足は鈍っており、空室対策の低価格販売で売上が落ちている」(札幌・旅館)と、引き続き消費の低迷を訴える声が寄せられている。

仕入コスト上昇

今月も素材関連を中心に仕入コストの上昇・高止まりを訴える声が多く寄せられている。「鉄、コンクリート関係の値上がりにより、受注時の見積もりより仕入値が高騰している」(豊中・一般工事)「国内外とも生産・販売は上昇気味だが、原材料の値上がり分は価格に転嫁できず困難な状況」(燕・金物類製造)「原材料、石油価格の高騰により好況感に水がさされ、設備投資意欲の減少が顕著である」(金沢・金属製品製造)「ブリキ、鉄等の原材料の値上げもさることながら、希望する材料が市場に出ないか非常に少ない」(習志野・金属製品製造)「重油等の燃料が大幅に値上がりしており、収益を圧迫している」(大垣・窯業)「荷動きの低迷に加えて自動車燃料の軽油が値上がり傾向で、採算が悪化」(石岡・運輸)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	4月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	5月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	6月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、採算D Iは4カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「営業社員の資質強化により、受注につながってきている」(電気工事)といった声はあるものの、「新規受注高は前年同月比で大幅減少し、人員整理が進んでいる」(建築工事)「市町村合併を控え公共投資予算の減少により受注が減少」(一般工事)「住宅ローンの金利も上昇の見込みがあり、一層厳しい状況」(建築工事)「原材料の仕入単価上昇と公共投資の減少が続いており、先の見通しが立てられない」(一般工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況D Iは5カ月ぶり、売上、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「自動車、半導体設備関係が相変わらず高い引き合いで推移している」(金物類)「売上、仕入、採算とも順調に推移し、業況は好転しており、今後も現状を維持できれば業況の回復につながり将来的にも期待感が持てる」(金属加工機械)との声の一方、「デジタル家電、半導体とも、上期は需要が好調に推移する見込みだが、下期は不透明な点が多々あり、市場動向が読み切れない」(電子部品)「造船は3.5年分の仕事を確保しているものの、船価の上昇とコスト削減が達成できれば利益も上昇するが、現状では見通しは厳しい」(船舶製造、修理)といった声や、「仕入単価の上昇を価格に反映できず、採算が苦しい」(金属製品)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは3カ月連続で拡大した。「前年同月比で出荷量は109%、売上額は105%と予想を良い意味で裏切る好調」(食料、飲料)「空梅雨で天候が良い分、客が多く売上も良くなっている」(食料、飲料)といった声の一方、「一時の状況から脱してやや好転の傾向にあるが、需要見通しが不透明で一般的に活気に乏しく、企業間でばらつきがある」(衣服、日用品)「夏物商戦が不調」(衣服、日用品)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「民間企業のボーナスが昨年を上回っているので、ボーナス商戦に期待できる」(百貨店)「小型普通車が順調な売れ行きで、一部高級車にも動きが見られる」(自動車小売)といった声の一方、「季節商品の水着と浴衣は好調だが、中元ギフトは出足がやや鈍く、ボーナス商戦も前半の盛り上がり欠ける展開」(百貨店)「つくりやブランドにこだわった商品は売れているが、商況は全体的に前年同月をやや下回る程度で推移」(百貨店)「高額品の動きが鈍く、前年同月比2割以上の売上減少で、天候が良いため来客数は多かったが、財布のヒモは固い」(商店街)と、引き続き消費の低迷を訴える声が寄せられている。
サービス	業況D Iは6カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「個人の宿泊予約が順調」(旅館)「システム開発案件が増加傾向」(情報処理)との声はあるものの、「ラーメン店や低価格の居酒屋は好況だが、焼肉屋や高級居酒屋といった業種は不況」(飲食店)「ゴールデンウィーク明けからずっと業況は悪く、回復の見通しはない」(寿司店)「引き続き荷動きが低調のまま推移し、依然として好転していない」(運輸)といった声や、「原油価格高による関連商品等の仕入単価が上昇している」(自動車整備)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、全ブロックでマイナス幅が拡大したため、全ブロック合計でも2カ月連続で拡大した。

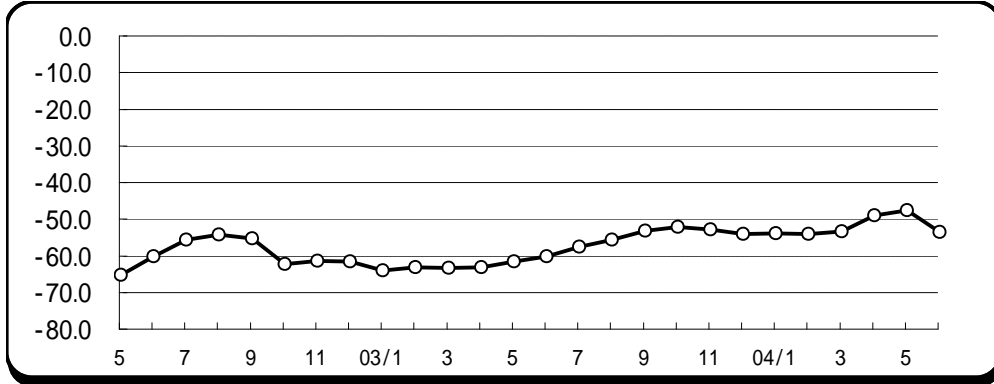
ブロック別の向こう3カ月(7月~9月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

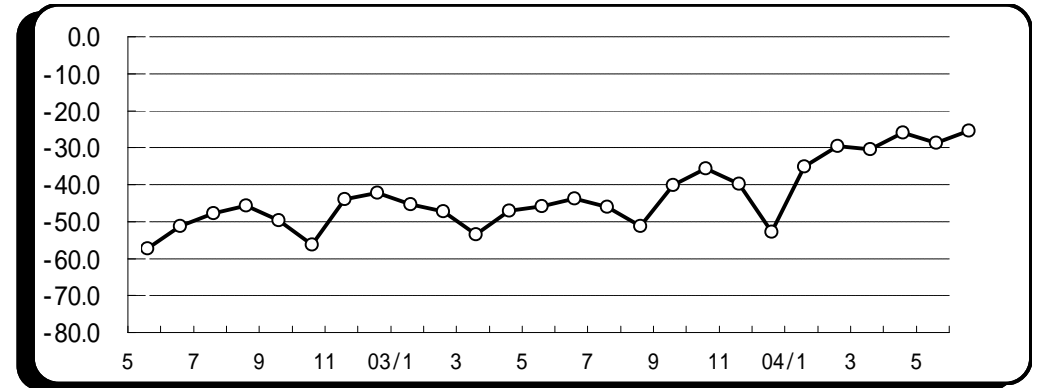
	16年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全 国	36.8	33.3	30.2	26.8	27.1	31.1	23.8 (40.2)
北海道	29.7	30.1	36.2	23.4	28.0	31.8	28.3 (33.6)
東 北	43.7	36.7	33.5	36.7	33.1	36.0	29.2 (37.2)
北陸信越	31.8	28.3	24.6	28.5	25.3	27.5	25.3 (36.1)
関 東	31.1	28.5	27.5	20.6	23.8	29.0	20.3 (38.9)
東 海	35.6	27.7	31.6	27.1	23.0	28.0	26.9 (37.1)
近 畿	43.9	39.2	32.4	30.4	27.5	29.2	24.9 (46.5)
中 国	37.4	38.2	33.3	26.4	31.3	34.6	28.8 (43.0)
四 国	44.6	48.6	39.8	32.2	30.0	38.7	21.0 (40.5)
九 州	39.6	31.6	22.9	24.3	29.3	32.1	16.4 (45.3)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

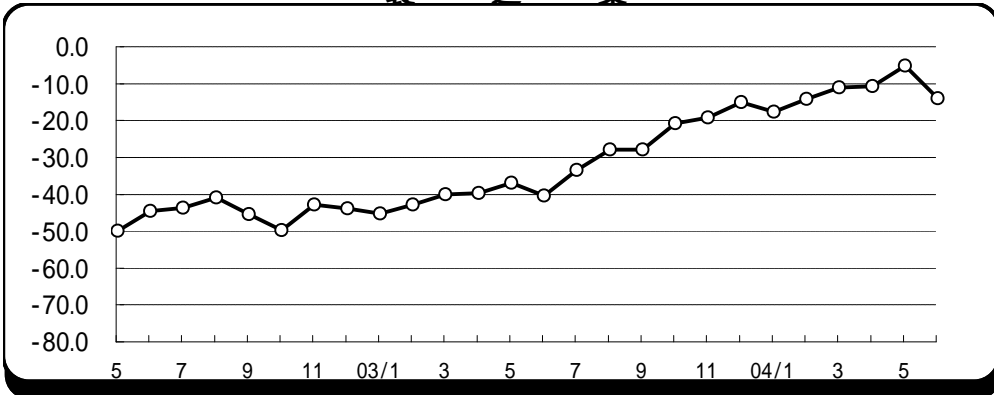
建設業



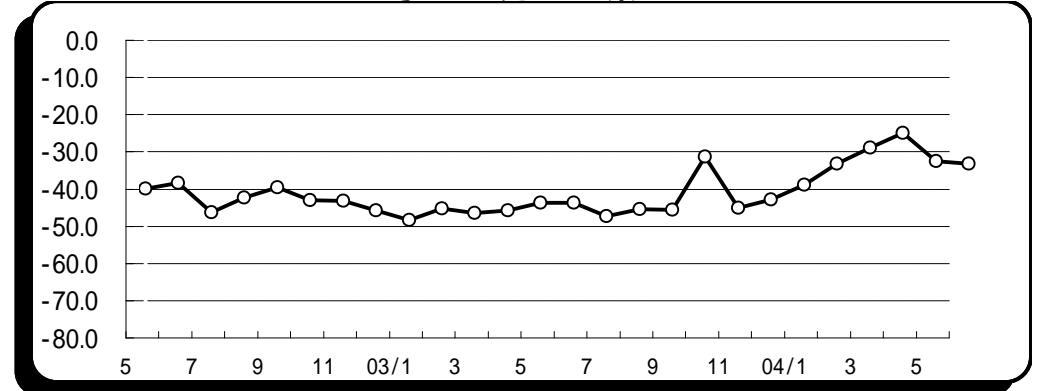
卸売業



製造業



小売業



サービス業

